

連載

# 74

## 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

### 私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長  
**橋本 満義** (65歳・内科)

番外編

#### 医療の王道を知り、つきすすむ決心が生まれた瞬間

～若き日の医療法人徳洲会 理事長 徳田虎雄先生(当時36歳)との出会い～

「君は誰だ」と言われ、思わず振り向いた私の前にいた人は、ほうれん草をわしづかみにし立ったままほおぼっている野生の熊のようでした。私には、そんな風に見えたのでした。徳田先生が創設した2カ所目の野崎救急病院医局で、私が友人(外科医)を待っていた時のことでした。



「一人前の本物の医者に育ててやるからすぐに来い」と言っていたのですが、「私は母校

の内科に入局し、大学院に進み、立派な医師となつて、故郷の人々の健康増進に寄与したいのです」と答えるのに精いっぱいでした。すると、徳田先生は大声でまくしたててきました。「人間、大学に一年もいと、学問という楽な道に逃げ込み、腐ってしまふ。君が故郷に、儲け主義の病院を造ったら、隣に大病院を造ってつぶしてやる!!」この衝撃的な一言は、今でも私の耳の奥から戒めのごとく聞こえ、脳裏に浮かび上がってきます。そしてそれを肝に銘じているのです。

その後の私は、一度は母校の内科に入局しましたが、やはり消化不良だったのです。あれこれ思いめぐらせた末、ネバーギブアップで頑張って、教を請おうと、全国の名医のもとを目指す旅に出たのでした。

肺がん(がんセンター 鈴木先生)、胃がん(がんセンター 市川先生)、肝・膵臓がん(大阪成人病センター 腹部エコー検査室 北村先生)、漢方医学(近大東医研教授 有地先生)、東西医学(大阪医大教授 兵頭先生)、医政(医療環境研究会 日本医師会長 武見先生) 以上の先生方には、特にご指導いただき、感謝しています。

私がこのような「スーパーローテーション」を行うこととなったのは、徳田先生の一喝が、私の志に火をつけ、学びとは与えられるものではなく、自分から行動してつかみ取るものだと思えたからに違いありません。

そして現在、先輩方からいただいた、素晴らしい教を無駄にせず、地域に貢献し、少しでも後輩達に引き継いでもらおうと、日々活動し、思いを膨らませています。

人生には、ターニングポイントがあります。そのひとつが、“在宅医療奮闘記その14”で述べた、後輩の水死に出くわしたことです。当時10歳の私が、救急対応していた医師の姿に、命の尊さを教えられ、また尊い仕事だと感じ、医師を目指したのでした。

そして、今回のエピソードの徳田先生との出会いによって、医師の歩む道にはいくつもあるということを知ることができました。

山崎豊子が「白い巨塔」で描いたように、当時は、学閥、先輩後輩、勲章にお金が飛び交う醜い光景が実在していました。しかし、患者中心という医療を目指すことは、学閥を飛び出し、全国の名医に教を請うことでした。こういったスーパーローテーションは、医学界では通常、非常識とされ、村八分的扱いになることを意味していたのです。ですから、現在の医師が行動するには、後悔することのない一生変わらぬ固い思い(志)と、家族をも巻き込んだ自分自身の人生(命)を懸ける覚悟が求められるのです。

そして時代は、さらに医療業界にその覚悟があるのかどうかを見極めようとしているのです。

※中国の唐時代の書「備急千金要方」より  
「小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す」

### 「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



**医師数 21名**  
(常勤6名、非常勤15名)

**内科・外科専門医 18名**  
(国立がんセンター勤務歴有3名)

**精神科専門医 2名**  
**麻酔科専門医 1名**  
(ペインクリニック科)

**末期がん治療(緩和ケア) 相談室開設!**

Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する  
**臨床生命科学(体質・病態学、栄養学) 研究所開設**

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

## (医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>